

「いただく」と

「くださる」の違い

間違いやすい敬語である「いただく」と「くださる」。「くださる」は尊敬語、「いただく」は謙譲語と種類が異なります。今回は、敬語表現の正しい使い分けをご紹介します。

◆どこが間違い？

次の文には間違いがありますが、それはどこでしょうか。

皆さんが今回の旅行に参加していただくと、とてもうれしく思います。

問題なのは「参加していただく」「いただく」です。「していただく」は動作を受ける側から見た表現です。この場合、「参加」という動作を受けるのは話し手であり、「皆さん」は動作をする側です。動作をする側からの表現は「くださる」です。つまり、「参加していただく」を「参加してくださる」にすると正しくなります。

一方、参加を受ける側からなら

「参加していただく」で間違っていない。ただ、話し手の側に立つて

「していただく」を使うなら「皆さん

が」を「皆さんに」にしなければなり

ません。ですから、最初の文は「皆さんに今回の旅行に参加していただ

と、…」と修正するのも正解です。

要するに、「○○が」くくださる」

「○○に」いただく」という対応を

守ることが大切なのです。

◆間違いやすい原因

このミスはよく見かけるのですが、それはなぜでしょうか。

日本語では単語の省略がよく行われます。そこで、最初の文も「参加する」に対する主語になる語を省略してみましよう。すると、



今回の旅行に参加していただくと、とてもうれしく思います。

となりますが、なんと間違いが消えています。読む人が、省略されている語を「皆さんが」ではなく「皆さんに」だと推測して読めば、間違いでなくなりません。このように省略すると、間違いとも正しいとも言えないあいまいさがあるせいか、「いただく」をいい加減な気分です使う人が多くて、このミスが増えていると思われる。

◆「いただく」好きは「自己中」か？

先にも述べましたが、「いただく」と「くださる」では動作の主体に違いがありました。例えば、相手が自

分に本をくれたとき、「私があなたに本をいただいた」とも、「あなたが私に本をくださった」とも言えます。主語が何になっているかを考えてみると、「いただく」は自分を中心としたとらえ方で、「くださる」は相手を中心としたとらえ方だと言えることになります。

実は、最近の日本語を観察しますと、「くださる」よりも「いただく」が好まれてよく使われているようです。自分中心のとらえ方をする人が増えているのでしょうか。

それはともかく、「○○が」くくださる」と「○○に」いただく」との区別をきちんと付けるようにしてください。



監修

佐竹 秀雄

当協会 現代語研究室
室長

国立国語研究所室長、武庫川女子大学言語文化研究所長を歴任。専門は現代語の表記論、文章論、言語行動論。『文章を書く技術』（ペレ出版）、『デイリーコンサイス国語辞典』（三省堂）ほか著書、編著書多数。